

月報

<462号>

ケルン・ボン日本語
キリスト教会
二〇二四年二月二〇日

「おつめの一歩」

佐々木 良子

今年も私たちの教会の恒例となっている降誕劇・ページェント礼拝を、教会に集っておられる方々総動員でお捧げして、イエス様の御降誕のお祝いをしました。

降誕劇の始まりは、遡ること六年前、二〇一八年からです。当時、まだイエス様と出会ったことのない幼な子を抱えたご家族八組が、「子育ての学び会」や「子ども礼拝」に集っていました。そのような皆さんが、聖書の御言葉に触れながら楽しくクリスマスを迎えられるように、との願いを込めてスタートしました。すると準備段階から積極的に関わってくださり、とても頼りになり励まされたものです。

舞台の大道具はその場限りではなく、長く使用でき保管し易いようにと、将来のことを考えながら工夫して作成してくださいました。そのお陰で今に至るまで使えることができ、私たちの教会の貴い財産となっています。

やがて時は流れ、担ってくださった全家族の皆さんは、日本に本帰国されました。当時小学生でマリア役だった小さなお嬢さんは、来年からキリスト教主義の高校に通うお姉さんに成長されました。時の流れを感じつつ、しみじみと懐かしく思い出されます。

このように世界は移り変わり、人も其々の道を歩んでいくのが世の常です。そのような私たちの

現実とは対照的に、永遠に変わらないのが聖書に記されている神の御言葉であることを改めて思うこの頃です。社会情勢がどのようなであつても、クリスマスの喜びのメッセージは、毎年私たちの所に届けられ、今年も祝福のメッセージをお聞きしました。

「学者たちはその星を見て喜びにあふれた。」

(マタイによる福音書二章一〇節)

皆さんがよくよくご存知の箇所です。東方の学者たちは、救い主を訪ねて長い旅をしてやっと辿り着きました。ユダヤ人の王としてお生まれになったお方は、家畜小屋の中で惨めなお姿でした。その光景は期待外れだったかもしれません。しかし、救い主であるイエス様と出会った喜びは何にも勝り、ひれ伏して礼拝したのです。その上、宝の黄金、乳香、没薬を贈り物として献げたこと記されています。

この学者たちは、当時、星の運行が人間の運命を支配していると考えられていた世界観の中で、その運命を読み解く占星術師たちでした。相当な学識を持ち、この世において地位のある身分の高い人々でした。

彼らは占星術師としてのこの世の地位に留まるのではなく、「救い主にお会いしたい」という一心で、これまでの歩みを方向転換して、星を頼りに旅立ちました。保障されている人生よりもひたすら神の御業をこの目でみたい、という行動は一般的には理解できないことでしょう。

一方で彼らを駆り立てたのは、この世では得られない、特別な天からの喜びだったのです。この世から得られることではなく、天からの喜び、神様の元にある希望の喜びでした。

もうすぐ二〇二五年を迎えようとしています。

私たちが与るべき大きな喜び、天来の喜びが既に用意されています。そのためには、占星術の学者のごとく、長旅も始めの一歩からです。その先にはこの世にない、喜び溢れる神の御業の世界が広がっているのです。

さて、私たちの教会は、来年は新たな一歩を踏み出そうとしています。前号でもお伝えしたように、私は九年間の任を終えて、二〇二五年三月に日本へ本帰国いたします。主の憐れみの中で、欠けの多いこの者をいつも近くで支え助けてくださった教会の皆さま、欧州内の同労者や各集会に集っている信徒の方々、そして、日本の支援会の皆様に、この紙面をお借りして心からお礼申し上げます。皆様の上に天来の喜び溢れる祝福をお祈り申し上げます。

今後は、現在牧師資格取得のために学び中の金聖恩姉を中心として、ケルンの地で「地の塩・世の光」の教会として歩んで参りたいと願っています。その為にもお祈りと共に是非とも欧州の先生方、並びに皆様の助けが必要ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

末筆になりましたが、この月報は今号が最終号となります。今迄お読みくださった皆さまに感謝いたします。次年度からは新たな形で配信して参りますので、引き続きお読み頂けると幸いです。

金聖恩姉へ バトンタッチ



一年間を振り返ってー

小川オスナー良子

今年色々なことがあった年でした。交通事故に巻き込まれたり、息子が転んで脾臓摘出の手術を受けたり、夏休みに息子の友達をつれて日本へ行ったりと、そしてこの二月、息子にとつて最後の少年合唱団のクリスマスコンサートがあります。一六歳の彼は来年から大人のBand Chiefに移ります。もう少年では無いけど、まだ大人ではない、でも選挙には投票できて、ビールも飲んでいい。活動範囲が広がって心配も増えますが、地域社会や世界のことにもっと関心を持って欲しいと思います。

年末に興味がてらDNAテストを受けたら、驚くことに、息子には三〇%ロシア人の遺伝子が入っていました。それ以外にはスカンジナビアとイギリス・アイルランドの血も入っている。私には日本と蒙古のDNAが。ヨーロッパもアジアも色々なところで混ざっていて、そして今の自分がある。皆が安心して暮らせるように、平和な世界を作るためにできることをしたいと願うクリスマスです。

最後に一言。月報の思い出は沢山あり、目に浮かぶのは編集に携わっていた奉仕者の方たちが本当に色々な思いを込めて作られていたことです。私も月報に関わることができ、とても感謝しています。

神野久美子

人生を四季に例えたとすれば私はとくに冬の領域に足を踏み入れていることになる。あちこち方々が来て先行き不安の材料が山積みで今年今までの以上に頭に昇って来たのがどこで御国に旅立つかという選択である。幸い私には帰る国があるしまた決断は自由ができる。

思えば四三年前にドイツに来たときは二、三か月ドイツ語を習ってちょっと観光をして日本に帰る予定だった。それがもう少しも少しと伸びて仕事も見つかり人間関係もでき、すっかり居着いてしまった。でも五〇代では最終的には一〇〇%日本に帰ろうと思っていた。それが年齢とともに七〇%になり五〇%になり今では軸足はすっかりドイツに移ってしまった。

思い返すと全く一人の知り合いもいなかったドイツで、あるホストファミリーを通して神様の愛を知りクリスチャンになり色々な導きを得て今日まで生かしていただいた。そして私の”心”はドイツにある。でももつと年を取ったら言葉や食事、思わぬ病気で苦労するかもしれない。色々考えていた時に佐々木先生の礼拝説教で”チャレンジ”精神に触れた。私の決断は冒険かもしれない。でも今まで導いてくださった神様の御手を離さず求めつつ歩いていけば大丈夫と思えてきた。主のご降誕を心より感謝します。

二〇二四年もあつという間に過ぎてしまいましたが、振り返って見るとあつという間ですが、その中で毎日すべての時間を守って下さった神様の恵みがなかった時がありませんでした。私達夫婦は仕事をしながらケルン・ボン教会に仕えて、個人的には牧師資格を取得するための神学の学びも並行して忙しく過ごしました。ドイツに来て五年が経って来年には永住ビザをもらえると思います。

金聖恩・金正浩

この一年間記憶に残る出来事は、毎月一回、メッセージを伝えたことです。足りないものの教会の皆さんが心から受け入れてくださって、伝えるものも本当に感謝できる毎回目です。

後、二月には日本に一〇日位行ってきて、小松川教会の礼拝も参加出来て、幸いな時間を持ちました。熱心に信仰生活をしている日本の方々に出会えて心から感動しました。

今年の世界の混乱が増して戦争や自然災害などが人々を苦しめています。神様の憐れみを願うしかない時です。

グルーベ道子

「この様な人は、流れのほとりに植えられた木の時が来る」と実を結び、その葉も萎まないようにその成すところは皆栄える。」(詩篇一章三節)

この聖句に出合ったのは、二年前の通読でした。以来詩篇一章一―三節を自分の前に置いて、御言との交わりを今日現在まで続けています。

佐々木先生がこちらに遣わされて約十年。その中でコロナの発生でスカイプ礼拝、聖研を勧められ、家にもくることの多い我々に通読を教えられました。初めて経験する伝染病拡大の世にあって、小さな群れが一匹も迷いでないようにとの先生の深い思いであったと受け止めています。

先ずじつくりと御言に心を向けて、思いを巡らし、吟味することで始める。流れのほとりに神が植えられた木の様に川辺に育つ木として生きる喜びです。

今年は今迄身近にいた孫達が大学進学で巣立ち、その成長ぶりを遠くからしか見守れない、と言う境遇に置かれ新しい経験の年となりました。何かと気を揉みがちな自分。でも来る朝ごとに御言に触れ、力をいただいている自分を見て、八七歳を元気に迎えた私にも私なりの成長があつたと心から感謝し、この待降節を迎えました。

先生にはこの地にあり、ご苦労があり、戸惑いを数多く経験なさつたことでしょう。聖霊に守られ導かれて、それを乗り越えての十年の絶え間ないお働き、種まきもいつかは実をつけることと信じ続けております。そして陰でこの長い間援助を続けてくださった支える会の多くの方々に「ありがとうございます。絶えることのない泉を与えられたこの地の木々は育っています。」と心からのお礼を申し上げます。すべてが御手の内に守られて。

クリステイナー ヌエン

Eine besinnliche Weihnacht, Ein zufriedenes Nachdenken über Vergangenes, Ein wenig Glaube an das Morgen und Hoffnung für die Zukunft. wünsche ich euch.

「思索的(平和)なクリスマス、満足感のこもつた過去への反省、明日に対する確信、そして未来への希望、これ全てを皆様に贈ります。」

シユミット亜弥子

遠くなりかけていた日本に六年ぶりに行き、親戚、友人、知人などに会ってきました。長い飛行機旅でこれが最後かなと思いましたが、皆さんにあつた後、又来たいなーという気持ちになりました。ニュースは毎日、国の紛争、経済の危機、世界の環境や気候問題を知らせて来ます。どんな中でも小さな喜びを見つけ希望を持って毎日を歩きたいと思ひます。

佐々木先生は来春帰国されます。九年もの長い間、先生を支える会の援助に感謝します。先生の健康が守られ、伝道に色々工夫され、一人でのドイツ生活にも順応された事を嬉しく思い、先生を送って下さつた神様に感謝します。

この一年、今日に至るまでの神様のお守りや、恵みを心から感謝します。今年三月に母が原因不明の病気に苦しめられました。現代医療の恩恵を受け、今は癒されて、背後におられる癒しの神に感謝します。八月には四人の幼い子供を持つ姪の連れ合いが突然亡くなって、精神的に絶望になった時、神様は彼女を救い出して生きる希望を与えてくださったことを感謝します。遠くに住んでいる私の事を常に覚えてくださっているケルンボン教会の皆様には感謝します。

橋本和歌子

メリークリスマス！

藤井隼人

今年一〇月、我々夫婦の長年の願いであった、子供たちに両親の故郷を案内する旅行が実現した。三人の子供たち(何れも四〇、五〇代)は家族を置いて(家族の理解を得て)、五人で米子市、鳥取市、島根県隠岐島を巡り、途中別行動を取りながら二週間であった。チケット、ホテル、レンタカー等、皆準備を分担した。「エドで私の為に」空港内アシストのサービスを予約してくれたお蔭で、車椅子に座って空港内を通り抜け、乗換え便に間に合った。

米子では母校の高校を五人で訪問。我々は、近道である裏の細道を登校していたが、この日子供たちと松並木を上って正門から登校してみた。案内役のY先生我々の一五期後輩と判明。女子更衣室のなかった、当時新しかった鉄筋の体育館のみ現存。隠岐の島に渡り、島後に二泊。細い山道の(右ハンドル車)運転を息子が無事にこなし、各所巡りを果たした。隠岐神社を訪問の後、「知々井」という私の故郷、今や人口三〇数名の(限界)集落を訪れ、今は更地の小学校跡、その隣の神社と、洞のある三本の大銀杏の木に挨拶した後、元漁協、今郵便局の一室で私の従兄の娘さん(郵便局員として勤務)や、話を聞いた。



て駆けつけた、町会議員を長年務め、村の生き字引のマーちゃん、区長のNさんと昔話に花が咲き、実に懐かしく、子供たちにも強い印象を与えた訪問と密には、教会の税務係争もほぼ解決できたことへ厳格で迎えることができ、感謝のクリスマスである。

Frohe Weihnachten!
藤井弘子

感謝その一... 二〇二四年は佐々木良子先生との九年間を何かにつけては思い出した。なんと驚沢で恵まれた年月だったことか。

その二... 三七年前にドレーアー教授の紹介で知り合った全盲の友人が最近教会での交わりを楽しみにし、日曜日の礼拝後に明るい声で電話をくれるようになった。数年来、彼の希望で私の一時帰国の際一緒に横浜磯子教会(南吉衛牧師の前任教会)に出席しているが、最初の時、点字の讃美歌や聖書箇所がサツサツと差し出されたのに驚いた。キリストの福音を眺めているのか!と自問しながらも、私には彼の全盲状態が「神の栄光が彼の上に現れるためです。」とはとても言えなかったのに。

その三... 二人の孫が日本語を今度は自発的に学び始めたこと。

その四... 我々夫婦と千恵、梨花、潔の四人が共に帰国でき、最近国籍をドイツに決めた三人の子供たちが日本中の伯父母従兄妹に(そしてその子や孫にも)会え、親交のできたこと。

その五... ドイツで作られる電気の三分の二が風力・太陽光発電などの再生可能エネルギーとなったこと。

救い主イエス・キリストの祝福、癒しと憐みが、特に闘病中の友の上に在りますように。能登半島の被災者、ウクライナの人々、中東の人々の上に限りなく在りますように祈りつつ。

クリスマス・メッセージ
藤井千恵

今年も又あつという間に過ぎて行った。静かで平和な生活ができていた私には想像もつかないことが、世界があちこちで戦争や紛争が絶えない中、毎日起こっている。お互いに相手のことを知ろうと理解し合うことが、友情そして平和につながることを確信している。自分の小さなコミュニティだけでも、色々な性格・経歴・背景を持つ人々と対応しながら仲良くできるのだから、草の根運動で理解の輪を広げて行きたい。未来の社会を築いて行く若い

世代に、その大切さを伝え続けたい。

私の人生で今まで関わってきた方たち(中でも特に生徒さんや同僚・友人)の背景を見ると、中国・ロシア・オランダ・イラン・スペイン・ラトヴィア・ウクライナ・アルバニア・サカルトヴェロ(ジョルジャ)・ブルガリア・ウガンダ・ポーランド・日本・ドイツ・フィンランド・イタリア・メキシコ・ニュージーランド・アメリカ合衆国・カナダ・カザフスタン・韓国・ロシア・エクアドル・アルゼンチン・ベルギー・スイス・フランス・オーストリア・トルコ・チェコ・アザルバイジャン・スロヴェニア・ボズニア・イギリス・アイスランド・アイスランド・スウェーデン・ペトナム・レバノン・ギリシャ・デนมールと、次々思い出してきた。本当はもっと多いかもしれない。多文化・多言語を生かしていく平和な社会を作っていきたい。

DONA NOBIS PACEM, DOMINE!

メリークリスマス!!

外間久美子

八月一四日、四五年のドイツ生活に終止符打ち本帰国しました。友人たちに恵まれ、仕事に恵まれた心地よきドイツにせめてあと五年は居たいという気持ちを持ちながらの決定でしたが、その決定は正解でした。七十過ぎての国境を越えての引越しが如何に大変かを経験しました。動作も頭の回転も鈍くなった上に眼のハンディ、何もかもが何倍も時間がかかるとにも気づきました。とて五年後の私には体力的にも、精神的にもきつとてなせなかつただろうなと思えました。この決断に導いてくださった主に感謝です。

一九八八年イースターに入団教会で受洗して以来、教会の兄弟姉妹は私の家族のような存在でした。離婚したときも、大病した時も、お引越しの時も私に寄り添ってくれたり、助け舟を出してくださったことか...。ありがたうございました。入団教会から転出するのはとても寂しいです。しかし、故郷に戻り、この地にしっかりと根を張って生活するために転入式があります。皆様のご健康とお幸せをお祈りします。

クリスマスおめでとうございます。

吉丸おと

今年も私にとつて、神様のお守りの中で沢山の出来事があった年でした。日本の大学に通っている娘の和慧の春休みに合わせて、三月に教会で佐々木牧師の司式のもと、六年前からお付き合い

をしていたペーター・ダウブと結婚式を挙げる事ができました。神様のお導きと教会の皆様のご協力によってとても祝福された時となり感謝でいっぱいです。皆様から頂いた温かなお祝いの言葉と励ましの言葉は私の一生の宝となっています。

新居探しには時間がかかりましたが、一月には理想の家を神様が与えてくださいました。教会からは少し遠くなりましたが、彼は教会に対してとても理解があって、仕事以外の時は必ず教会に行き神様の御言葉をお聞きして、皆様と楽しい交わりを持つことができています。この一年間の全てのごことに感謝でいっぱいです。

ありがとうございます。ブリュッセル教会一同

二〇二二年九月、任期中で無牧になったブリュッセルの群れをケルンのスカイプ礼拝に誘ってくださり、また、聖書を学ぶ会での交わり等で、教会は温かな所だったと再認識できました。その上、今年からは、佐々木先生は月に一回ブリュッセル送りしてくださり、対面での礼拝と聖餐の恵みに与り、無牧の教会であることを忘れるかのような心強い導きとお支えが、とても有難かったです。

また、一月にはファミリー礼拝を行い、子どもたちと一緒にアドヴェント・カレンダー作りもできました。このクリスマスには有志の方々をケルンに同い皆様と一緒にクリスマスパーティーと礼拝をお捧げできる喜びを感じています。先月は二月の礼拝で最後となります。実に一言では足りませんが、感謝を込めて。



◇ 報 告 ◇

◇九月二十九日(日)一八時より、外国語教会主催による夕礼拝がアントニア教会にて開催され、牧師、他五名が参加し、日本の讃美歌を賛美する奉仕をしました。

◇一〇月二四日、佐々木牧師は、バルセロナ聖書を読む会でのZoomによる説教のご奉仕をしました。

◇一月一日(祝日)蚤の市を開催し、総売上高3435,33ユーロから諸経費268,72ユーロを引いて、純益3166,61ユーロを、「Brot für die Welt」にお捧げしました。

◇一月日 ポンハッファー教会との合同礼拝。聖書の食事の時を持ちました。

◇一月一八日〜二二日、南ドイツ Monbachtal における欧州教職者研修会に佐々木牧師が参加しました。



◇ お知らせ ◇

二〇二五年 新年礼拝(会堂・スカイプ)・祝会
日 時 一月五日(日) 一四時〜

◇ 佐々木牧師本帰国に関して

送別礼拝 二〇二五年三月九日(日) 一四時〜
二〇一六年に赴任され、二回の任期延長を経て、長きに亘り、教会に仕えて来られました。二〇二五年三月をもって日本に本帰国されます。それに伴い、送別礼拝をお捧げいたします。

◇ 予 告 ◇

◇一月二六日 教会定期総会 会堂&スカイプ 礼拝後、一五時三〇分〜

◇三月一九日 佐々木良子牧師本帰国

◇四月からの礼拝に関して

既に宣教師資格を持っておられ、現在牧師資格取得のために学び中の金聖恩姉を中心として礼拝をお捧げします。詳細は改めてご案内いたします。

◇ 編集後記 ◇

新しいことを始めるよりも、今行っていたことに終止符を打つことの方が、大きな決断を要するようになります。しかし、イエスさまのご復活のように「終わりには始まりのごとく、教会の新しいスタートの初めの一歩であることに期待して二〇二五年を迎えたいと願っています。 佐々木良子

12月15日クリスマスページェント礼拝&祝会
ブリュッセル教会からは、四名の有志の方々に参加されました。祝会には、ボンヘッファー教会のゲッパート先生も参加してくださいました。



発行：ケルン・ボン日本語キリスト教会役員会
Japanische Evangelische Gemeinde
Köln/Bonn e.V.
<主日公同礼拝>
会場：Dietrich Bonhoeffer Kirche
住所：An der Decksteiner Mühle 1
50935 Köln(Lindenthal), Germany
電話：0221-430319 (礼拝前後のみ)
時間：毎週日曜日 14:00-15:00
<牧師>佐々木良子
(Pfarrerin Ryoko Sasaki)
牧師宅：Breslauer Str.26, 50858 Köln
固定電話：02234-9298792
携帯電話：0151-2910 6278
E-mail r310130s@gmail.com
<ホームページ>
<http://koelnbonn.jp>
<振込口座>
口座名 Hayato Fujii(JEGKB)
IBAN: DE49 3004 0000 0431 3565 00
BIC: COBADEFFXXX